

ニュアンスの微妙な違いを  
軽やかに解説。



日本語の語彙表現の感性を磨く！

## 類語ニュアンス辞典 中村明 [編著]

B6判 752ページ 定価(2,900円+税) ISBN 978-4-385-13653-0

- 日本語の語彙のもつ微妙なニュアンスを確かめる!
- 筆者のユーモアあふれる語りに耳を傾ける!
- 創作・メール・手紙・レポート・ブログの表現の精度を一段上げる!
- 文学作品の具体例から、文章表現の機微を感じ取る感性を磨く!

### 【編著者紹介】

**中村明 (なかむら・あきら)** 1935年、山形県鶴岡市生まれ。国立国語研究所室長、成蹊大学教授を経て、早稲田大学の教授となり、現在は名誉教授。  
著書は『作家の文体』『悪文』『人物表現辞典』(筑摩書房)、『比喩表現辞典』(角川書店)、『日本語レトリックの体系』『日本語文体論』『日本語 語感の辞典』『日本語のニュアンス練習帳』(岩波書店)、『新明解類語辞典』(三省堂)、『感情表現辞典』『類語分類 感覚表現辞典』『日本語の文体・レトリック辞典』『文章を彩る 表現技法の辞典』(東京堂出版)、『美しい日本語』『日本語の作法』『五感にひびく日本語』(青土社)など多数。『角川新国語辞典』『集英社国語辞典』編者。『日本語 文章・文体・表現事典』(朝倉書店)、『三省堂類語新辞典』編集主幹。

三省堂

本文の理解を深める助けになるよう、上下段に姉妹書『新明解類語辞典』の解説を掲載。

小説・詩歌などからの実例を豊富に紹介。※紫色マーカー部分

自然▼庭

**園** 園花・果樹などを栽培する一  
区画。「桜の園」**庭** 苑

**庭** 敷地の中に草木を植えたり泉  
水を設けたりした場所。「一の  
手入れ」**庭** 苑

「庭」というと、すぐに観賞用の草木や池や築山などを連想するが、この漢字はもともと宮殿内の式場を意味したらしい。日本語の「にわ」も古くは、現在のような眺めて楽しむ対象ではなく、家屋の周囲にある空地をさし、祭りとか農作業とか何かを行うための場所を意味したという。現代語の「場」に近いことばだったようだ。

万葉の昔、大伴家持の詠んだ「春の苑紅にはふ桃の花下照る道に出で立つ乙女」という一首に出ている「苑」という漢字も、新宿御苑などの連想から観賞用の立派な庭園を連想させる。しかし、これも古くは草花や果樹、それに野菜などを植えておく、区画の土地をさしたらしい。「園」という漢字も、木末は芽をめぐらした場所という意味

日本語表現研究の第一人者が、軽やかな語り口で類語を比較し細かいニュアンス・用法を詳説。

※黄色マーカー部分

**出芽** 発芽「表がする」

**芽生える** 芽が出始める。「主顔を出す」という。

**芽ぐむ** 園草木の枝から芽が

**芽吹く** 樹木の枝から芽が勢いよく出始める。「柳」

**芽差す** 園芽が出る。「柳が」

**芽が出る** 草木の種や枝、球根、地下茎の一部が膨らみ、やがて葉、華花などに生長する部分が出る。

**芽を出す** 芽が出るようになく芽を出せ種の種。

芽——芽ぐむ・芽生える・萌す

日本語には、植物が芽を出すことを表す動詞が豊富である。種子から芽が出ることを「発芽する」と言い、「出芽する」とも言う。どちらも漢語の名詞に「する」をつけた動詞で、主として文章の中で用いる。学術的な雰囲気や漂々客観的な用語で、くだけた会話にはなじまない。「芽生える」「芽ぐむ」「芽吹く」「芽差す」「芽が出る」「芽を出す」あたりは会話にもなじむ日常語だ。京都大学で美術史を講じた沢村胡夷の作詞になる旧制三高の寮歌には「紅萌ゆる岡の花／早緑匂ふ岸の色」とある。この「萌える」は「萌え出る」とともに、いくぶん古風で詩的な雰囲気がある。ほぼ同義的な「萌す」も文章語的なレベルにあるだろう。それぞれに語感の微差はあっても、意味の面ではいずれも発芽現象を表しており、農耕民族の名残を思わせるほどに、この面の語彙は実に豊かで、並べてみると驚く。「愛」や「恋」には「芽生える」

**兆す** 園芽生える。「若草が」

**萌え出る** 園草木の枝から芽が出て伸びる。「草本新芽が」

**萌える** 園草木の芽が出る。「若草が」

**芽** ①若草が伸長する前の未発達の状態。「木の」がふく。②種子から出たばかりの草木。「朝顔の」が出る。

**発芽** 種子が芽を出すこと。「種などから芽が出る」という。

見本ページ(縮小)

## 自然・人間・感覚・感情・活動・場所…と分野ごとに日本語語彙の広がりを見渡すことのできる内容構成。

※本書で取り上げた見出し語の例 (【 】は章タイトル)

- 【自然】 天(天空、天上)、太陽(日輪、日、お日様、お天道様、白日、……)
- 【人間】 顔(顔面、つら、おもて、かんばせ、面立ち、……)、命(生命、人名、一命、露の命、寿命、天寿、……)
- 【感覚】 匂い(臭い、香り、香、香気)、しょっぱい(塩辛い、からい)
- 【感情】 嬉しい(楽しい、喜ばしい、……)、泣く(慟哭、号哭、号泣、涕泣、嗚咽、……)
- 【活動】 訪ねる(訪れる、訪問する)、やる(くれる)、困む(取り巻く)
- 【場所】 中央(真ん中、真ん真ん中、ど真ん中)、台所(勝手、キッチン)
- 【時間】 夕方(夕刻、たそがれ、薄暮、日暮れ、宵の口、……)

三省堂 〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411〈編集〉・9412〈営業〉 <https://www.sanseido.co.jp/>

注文書	NEW 類語ニュアンス辞典 ISBN 978-4-385-13653-0 定価(本体2,900円+税)		冊	書店名・帖合先	三省堂
	お名前	お電話番号			
	ご住所 〒				

※必要事項をご記入のうえ、最寄りの書店へお申し込み下さい。お客様の個人情報は本書のご注文のみに利用し、目的外の利用はいたしません。